第2回
四万十町事前復興まちづくり計画策定委員会

資料1 説明資料

令和8年9月15日

目　次

（１）第1回委員会のふりかえり

（２）地形条件等が類似する被災地の復興事例

（３）想定する地震津波

- 南海トラフ地震による震度分布・津波浸水予測　令和7年度［高知県版］

（４）グループ討議

- 将来の復興まちづくりの選択肢～復興パターンの検討～
- 興津地区、志和地区　地区ごとの課題共有

（５）第1回地域検討会の進め方について

（１）第1回委員会のふりかえり

第1回委員会で挙がった主なご意見

論点	第1回委員会での主なご意見
復興の前提（想定と安全水準）	●復興計画を立てる基準となる「津波高」の目安をどう示すかが課題 ●県が令和7年に見直した南海トラフ地震の想定をもとに考える。津波だけでなく、斜面崩壊や土石流など山側からの被害も同時に考慮する必要がある。
集落の単位と復興の方法	●興津は3つの集落がそれぞれ独立し独自の文化を持つ。1つの地区に集約するのか、現在の土地でそれぞれ復興するのか、意見を聞いてまとめる必要がある。
住まいの再建方法	●被災後は自力で家を再建するより災害公営住宅に住む方が良い。子どもは町外におり、帰る見込みがない。 ●盛土をした土地は再び地盤沈下を起こす可能性が高い。山を削った土地（切土）で生活できる住宅地を造成してほしい。 ●興津は半分以上が60歳以上で、自力再建したい人は非常に少ない。
なりわいの再建	●農家の人も同じ場所でもう一度農業をやりたいと思うか分からない。 ●自宅も資材もすべて流された後、一からなりわりと生活を再建することは現実的に難しい。被災後に今の仕事を続けるのか、窪川地区で仕事をするのか、現時点では全く考えられない。
地域の担い手	●一番心配しているのは、被災後に本当に人が戻ってきてくれるかどうか。津波の波よりも高齢化の波の方が怖い。地元に腰を据えて働く人はごく一部。 ●100年先に来るかもしれない津波に、今大掛かりな対策をすべきか疑問。現状維持で良いのではないか。
低地・沿岸の扱い	●沿岸部に無人地帯ができると、不審者が滞在しても誰も気づかない。沿岸に住み続けられる生活基盤の維持を支援してほしい。港内に存置された廃船が津波で流され被害を拡大させる。事前の漂流物・減災対策を検討したい。

（２）地形条件等が類似する被災地の復興事例

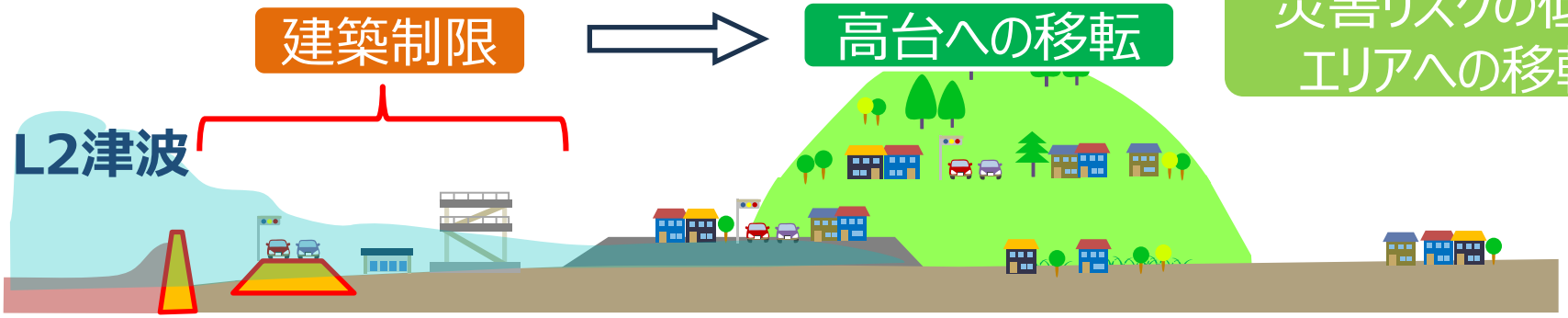
東日本大震災からの復興まちづくりのイメージ

巨大地震・津波による壊滅的な被害



将来にわたって二度と人命が失われないまちづくりを目指す

【復興まちづくり】



L1津波 多重防護　土地のかさ上げ

まちの姿は大きく変化

防護施設の効果を考慮した津波シミュレーション

東日本大震災における復興まちづくりの事例

岩手県宮古市



岩手県釜石市



高知県四万十町



岩手県大槌町



宮城県女川町



地形条件等が類似する被災地の概要

地区	人口･世帯	志和･興津との類似点 参考となるポイント
四万十町 ● **興津地区** ● **志和地区**	志和　190人／99世帯 興津　710人／396世帯 （令和2年国勢調査小地域集計）	
宮城県女川町 ● **指ヶ浜地区** ● **高白浜地区**	指ヶ浜　50人／17世帯 高白浜　37人／15世帯 （令和2年国勢調査小地域集計）	• 平地が乏しい入り江の漁業集落 • 高台移転で集落を再建しつつ、漁港への近接性を確保
岩手県釜石市唐丹町 ● **小白浜地区** ● **花露辺地区**	花露辺　151人／69世帯 小白浜　389人／197世帯 （住民基本台帳R8.3）	• 同一湾内で「防潮堤あり／なし」の対照的な選択 • 花露辺は住民合意により防潮堤を整備せず、道路盛土と高台移転で安全を確保
岩手県大槌町 ● **吉里吉里地区**	吉里吉里 2,104人／803世帯 （令和2年国勢調査小地域集計）	• 砂浜と「海とのつながり」を重視 • 防潮堤の法尻をセットバックし砂浜を保全 • 分散した高台移転を避け、まとまって住む集落形状を維持
岩手県宮古市 ● **音部地区**	重茂半島全域 1,237人（令和2年） （宮古市立地適正化計画）	• 半島部で幹線道路が実質1本のみ • 浸水により道路が寸断され長期孤立 • 浸水区域を回避した復興関連道路の整備

宮城県女川町の事例

高白浜（たかしらはま）地区

海が見える高台に移転した集落



災害公営住宅（戸建てタイプ）



高台の住宅



宮城県女川町の事例

移転した集落から漁港を望む



高台の住宅地



指ヶ浜（さしがはま）地区

いのちの石碑



避難階段



岩手県釜石市唐丹町の事例

小白浜（こじらはま）地区

L1津波を対象とし防潮堤によるまちづくり





花露辺（けろべ）地区

防潮堤を整備せず道路盛土や高台移転で安全を確保





岩手県釜石市唐丹町　花露辺（けろべ）地区の事例





網干し場や漁具倉庫など、ニーズに応じた工夫

岩手県大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例



出典：Google Earth. (v7.3.6.10201). 吉里吉里地区. 2025年8月19日取得

岩手県大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例



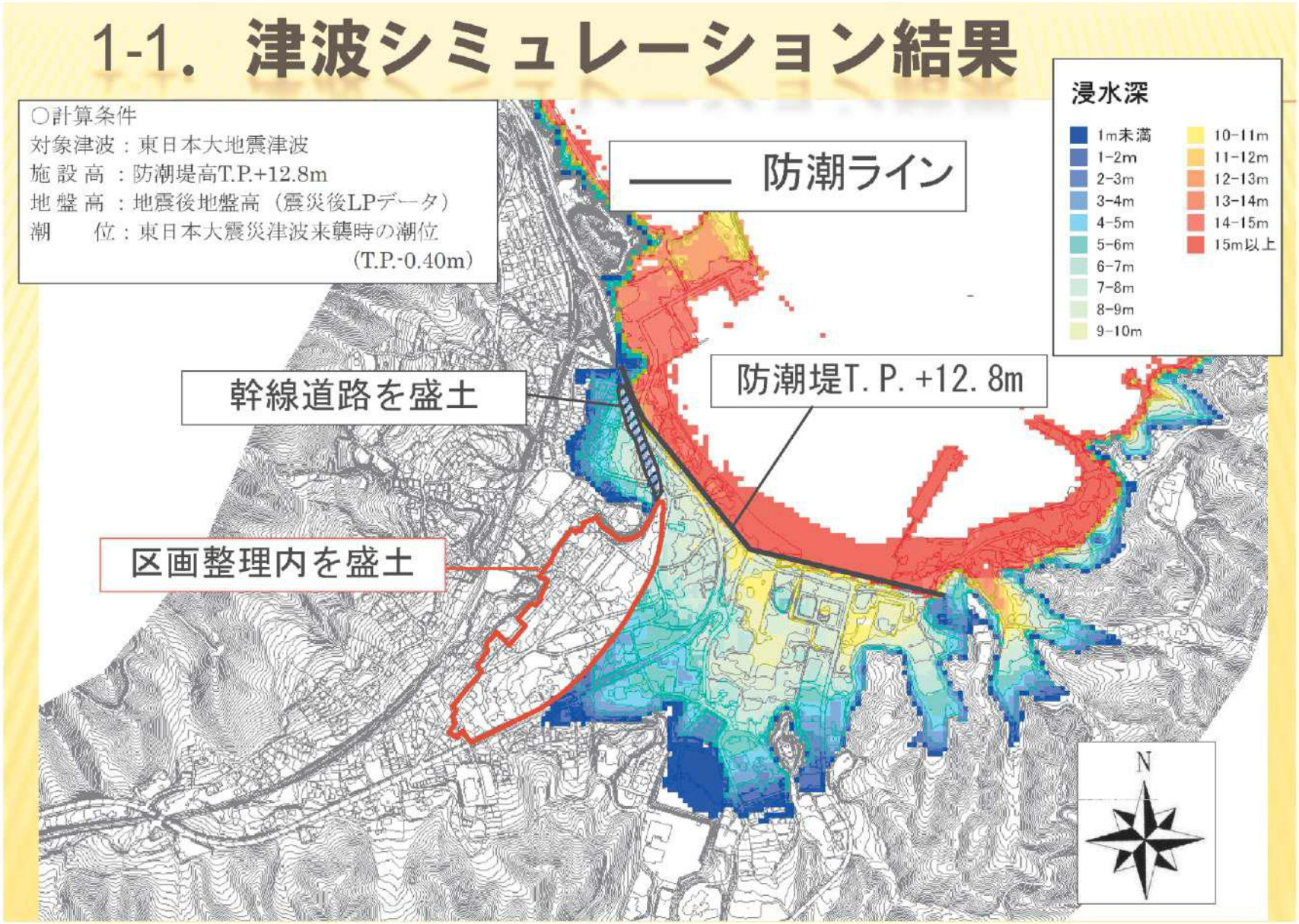
出典：Google Earth. (v7.3.6.10201). 吉里吉里地区. 2025年8月19日取得

岩手県大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例



出典：Google Earth. (v7.3.6.10201). 吉里吉里地区. 2025年8月19日取得

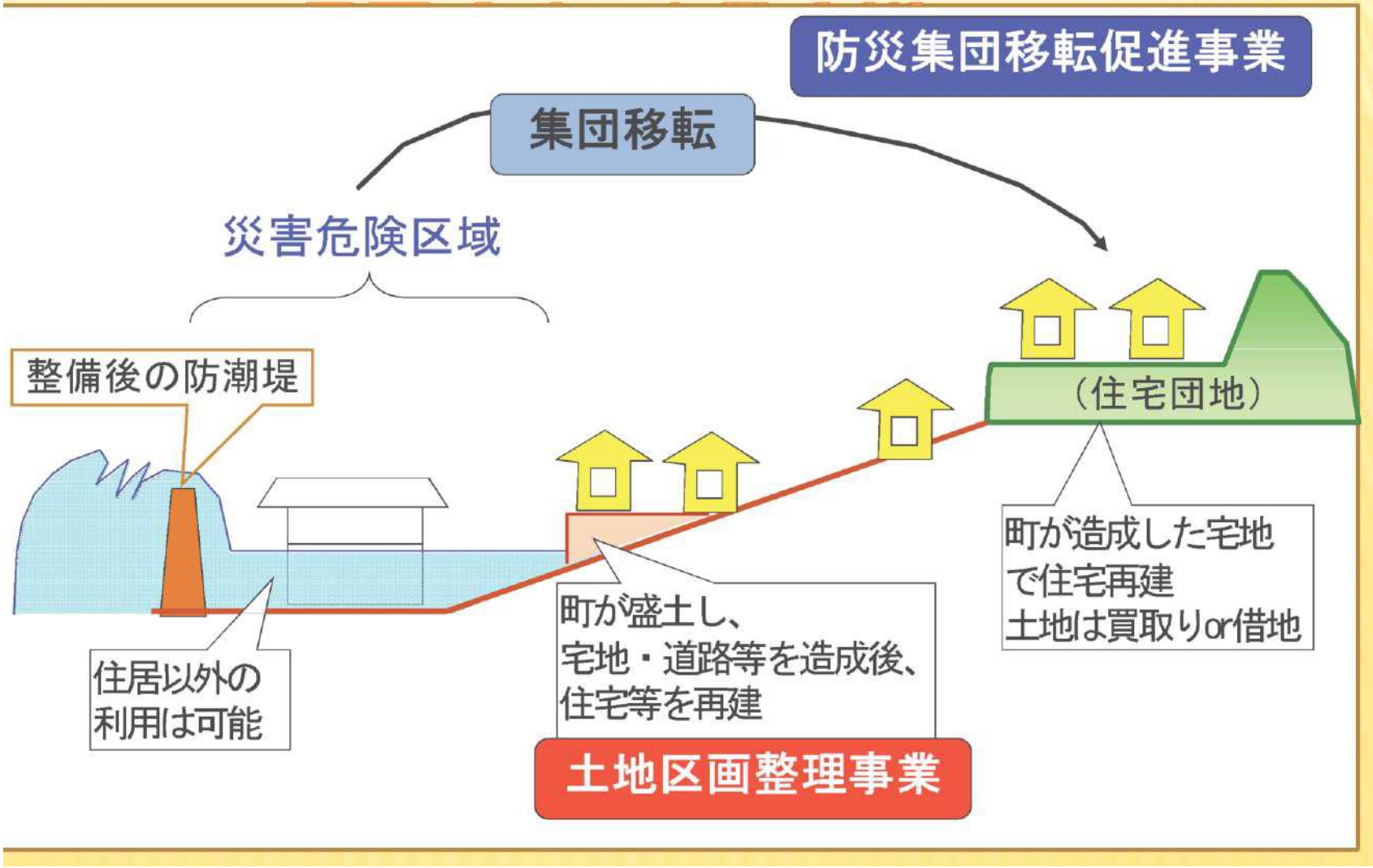
大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例



出典：第２回吉里吉里地域　復興まちづくり懇談会　吉里吉里地域復興まちづくり協議会　大槌町都市整備課

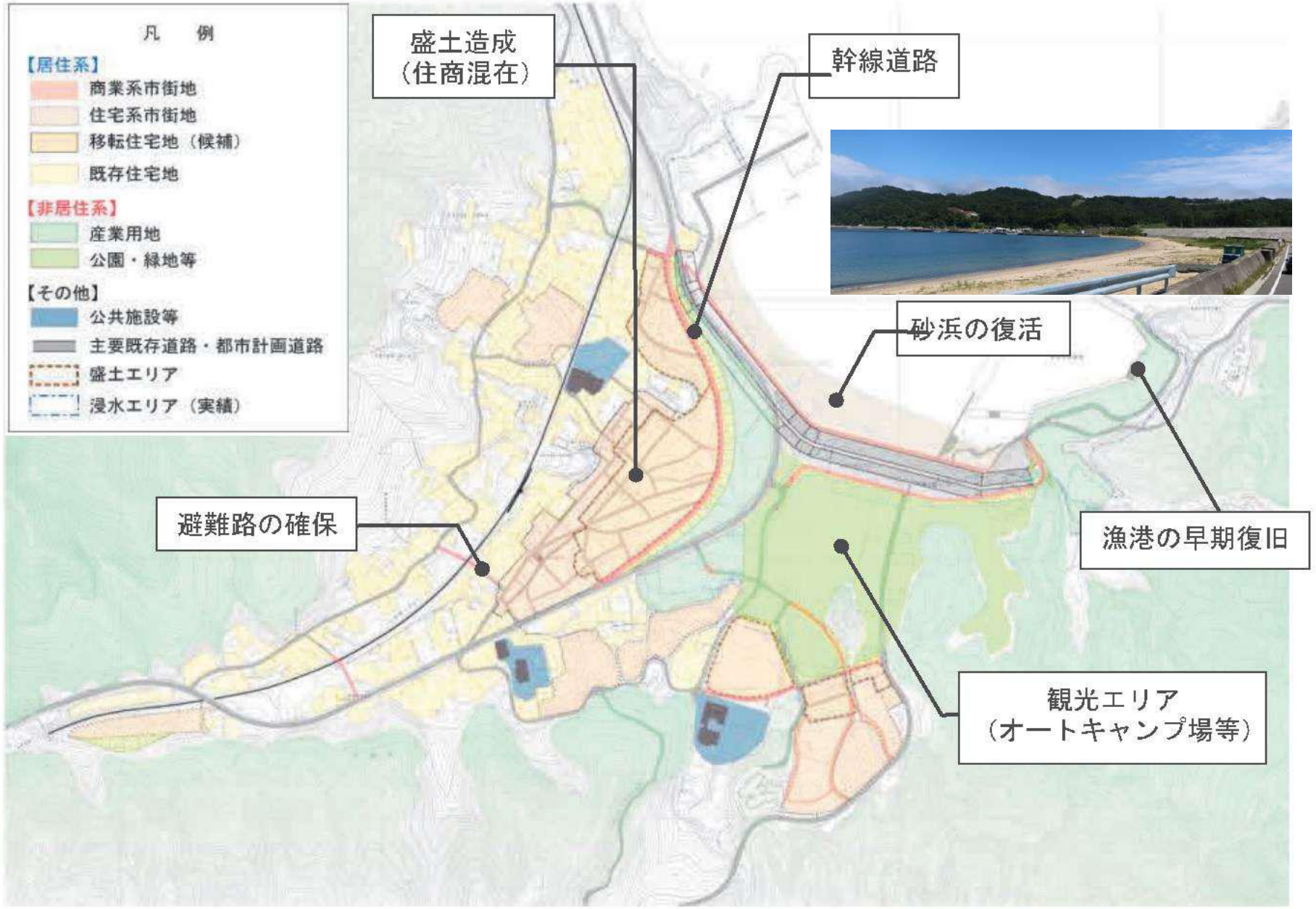
大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例

1-2-2. 事業イメージ断面図



出典：第２回吉里吉里地域 復興まちづくり懇談会 吉里吉里地域復興まちづくり協議会 大槌町都市整備課

大槌町吉里吉里（きりきり）地区の事例



出典：大槌町東日本大震災津波復興計画　基本計画【概要版】

岩手県宮古市　音部（おとべ）地区の事例

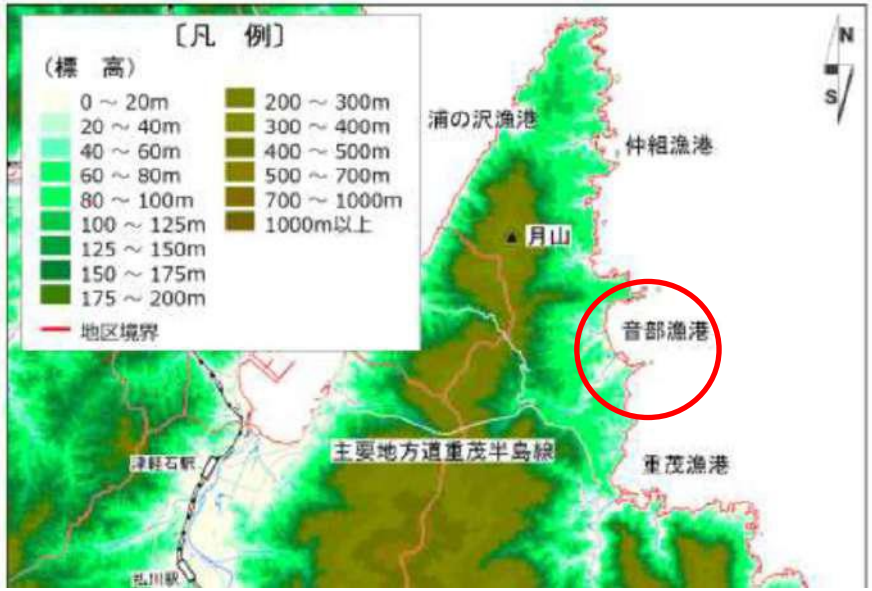


出典：国土交通省都市局『復興支援調査アーカイブ』データ

- ✓ 重茂半島の太平洋側に位置する集落
- ✓ 宮古市中心部から半島の尾根を越えて重茂漁港までは約20km
- ✓ 主な産業は、採介藻漁業とわかめ・こんぶ養殖漁業、定置網漁業







出典：宮古市地区防災計画【重茂】（標準版）　Ver.1.0

岩手県宮古市　音部（おとべ）地区の事例



出典：岩手県　美しい県土づくりNEWS 2015年1月号に加筆

海沿いの県道を山側に移設して整備

- ✓ 県道重茂半島線は、重茂半島を周回する唯一の道路
- ✓ 水産業を中心とする地域の生活道路として重要な役割を担っている
- ✓ 重茂半島線の海辺の集落では浸水により道路が寸断され、長期間孤立するなどの甚大な被害が発生
- ✓ 岩手県では、県復興計画において県道重茂半島線を水産業の復興を支援する「復興関連道路」として位置付け
- ✓ 東日本大震災の津波で浸水した区域を回避した道路を整備したことにより、同規模の津波が発生した場合でも、各集落の孤立を防ぎ、緊急輸送路としての機能を確保できる





（３）想定する地震津波

想定する地震津波の概要

発生頻度の高い一定程度の地震・津波（L1）

- 発生頻度の高い一定程度の地震・津波
- 平成27年12月に内閣府が公表した断層モデルをベースに安政南海地震を再現した断層モデルを新たに設定し、推計を行ったもの

最大クラスの地震・津波（L2）

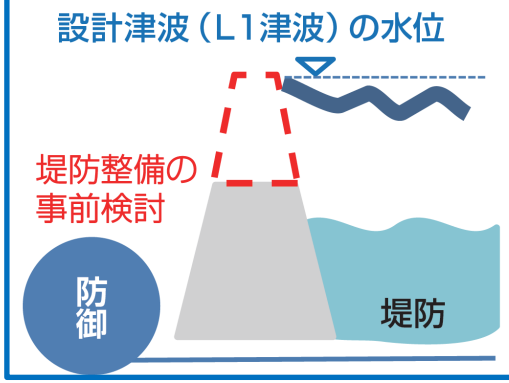
- 現時点の最新の科学的知見に基づく発生しうる最大クラスの地震・津波
- 現在の科学知見では、発生時期を予測することはできないが、その発生頻度は極めて低いもの

出典：令和７年度[高知県版] 南海トラフ地震による最大クラスの被害想定の概要（R8.3.24版）

津波対策の考え方

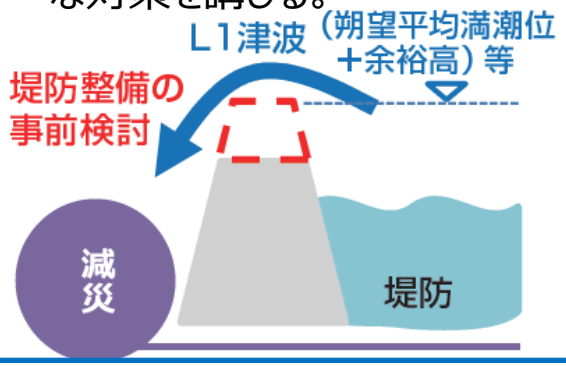
防御

- L1津波から背後地域を護るために必要な高さでの整備を基本とする。



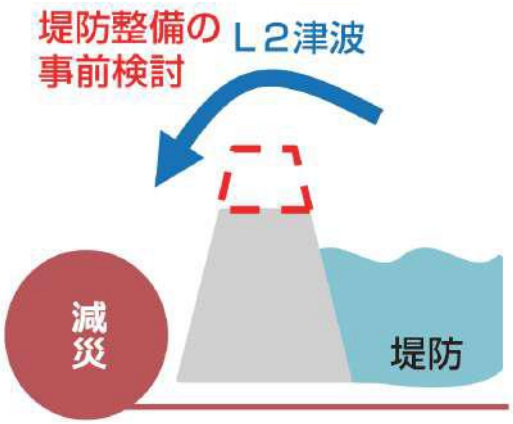
減災

- 日常生活やなりわいを守る観点から、地域の意見も踏まえ総合的に堤防高を決定する。
- 堤防高を低くする場合には、津波からの避難時間を確保するとともに、ハード・ソフトの多重的な対策を講じる。



減災

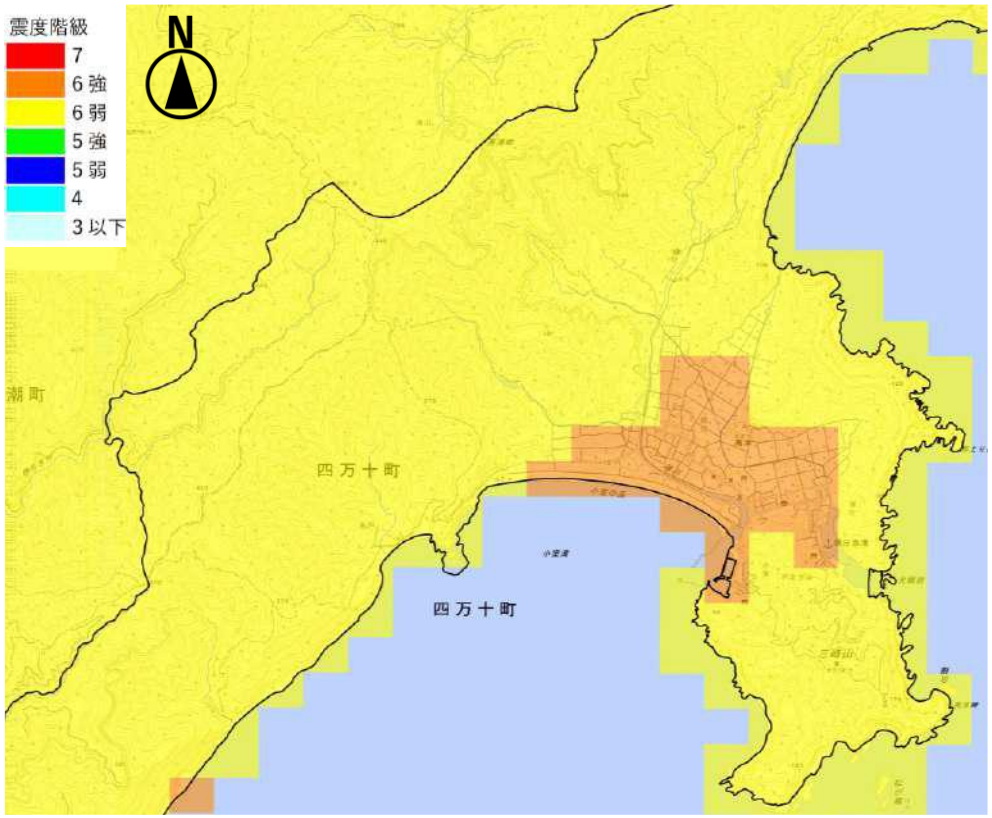
- 住民等の生命を守ることを最優先とし、住民の避難を軸に、ソフト・ハードのとりうる手段を尽くした総合的な対策



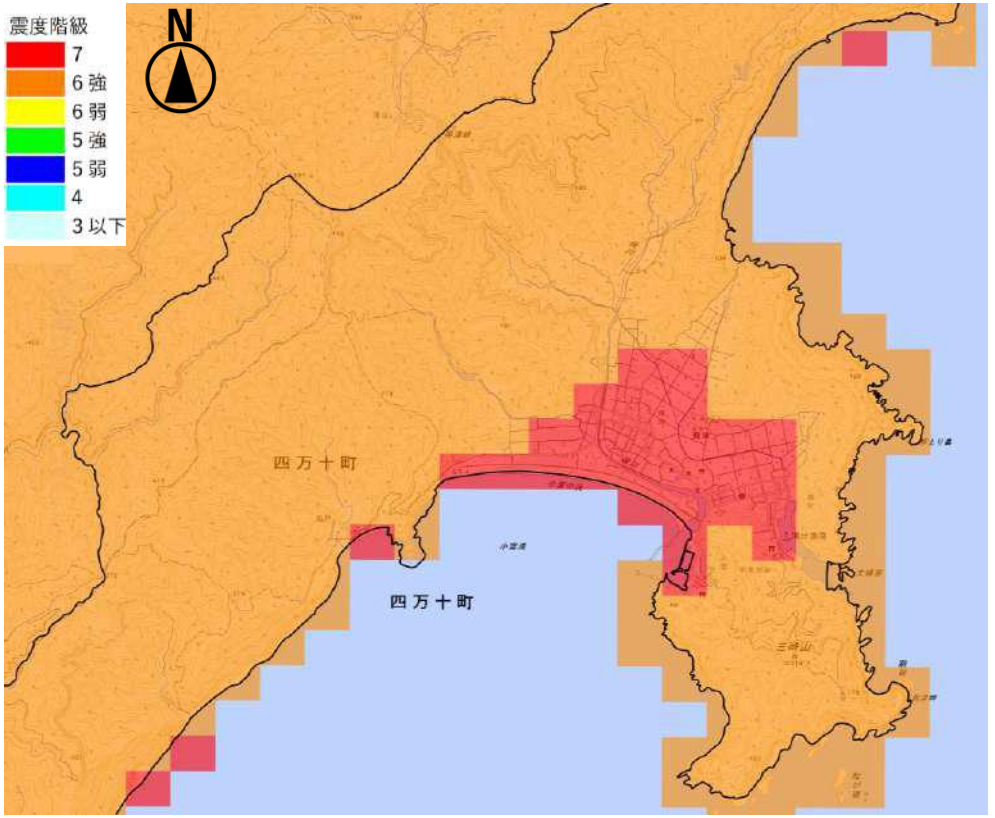
出典：高知県事前復興まちづくり計画策定指針　一部加工

震度分布図（興津地区）

L1クラスの震度分布図



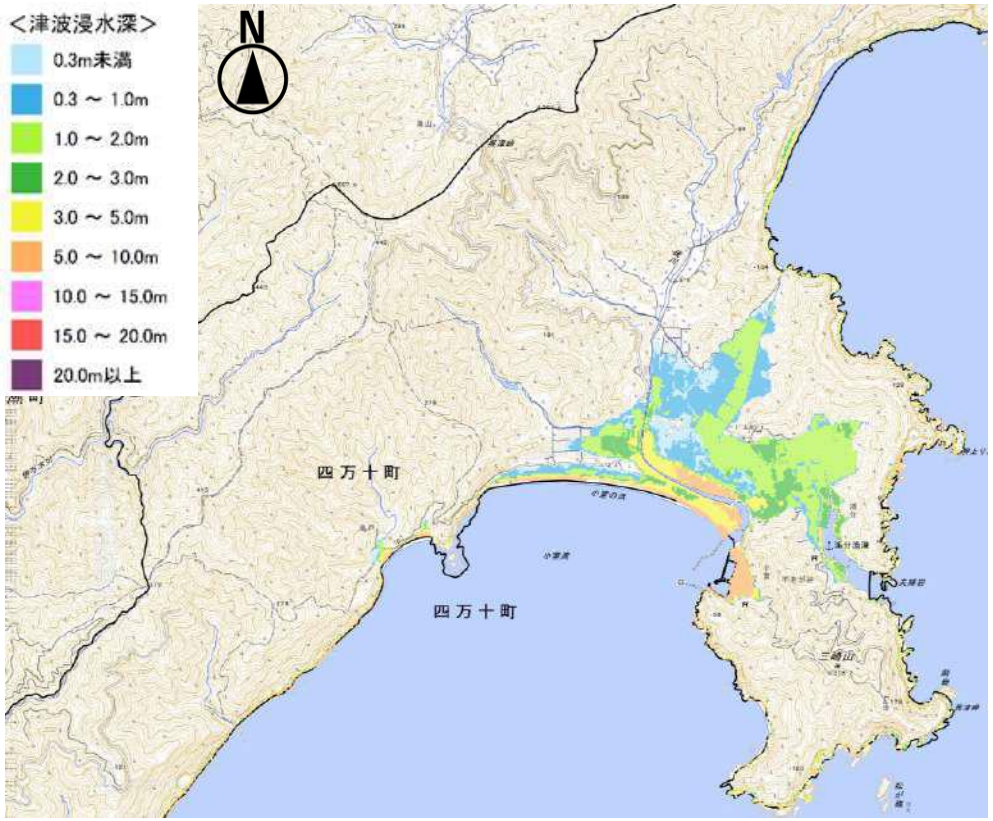
L2クラスの震度分布図



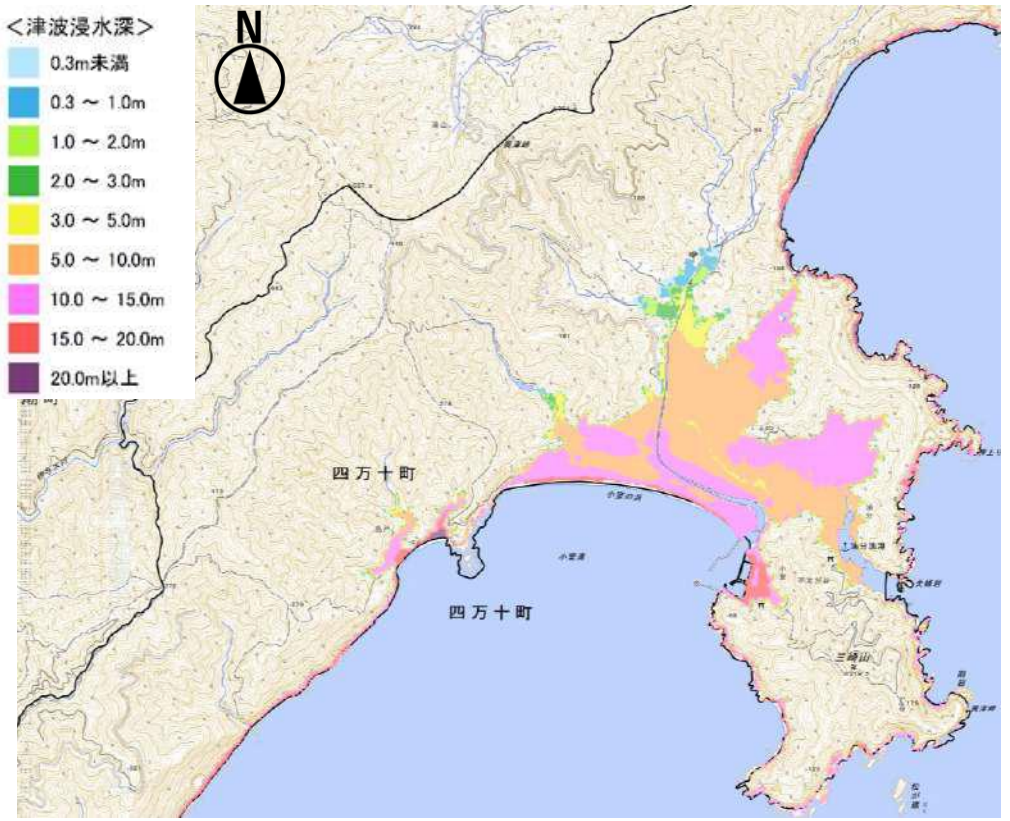
出典：令和7年度［高知県版］南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測について

津波浸水想定（興津地区）

L1クラスの津波浸水想定



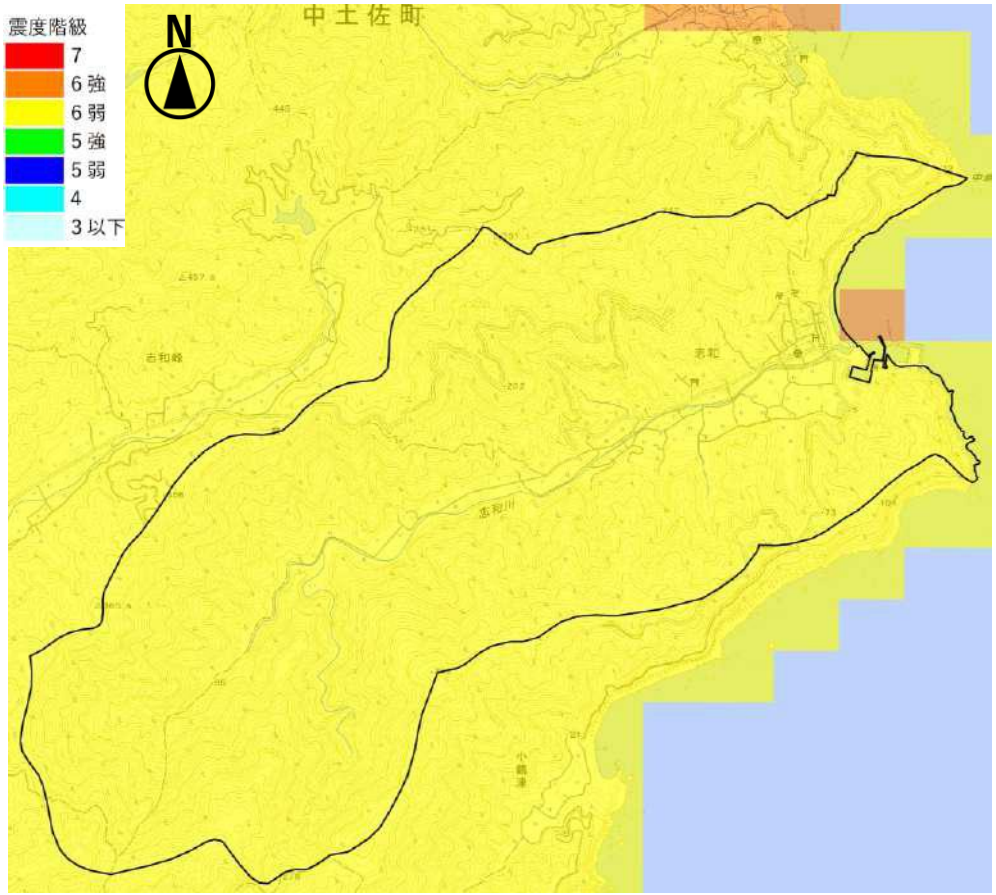
L2クラスの津波浸水想定



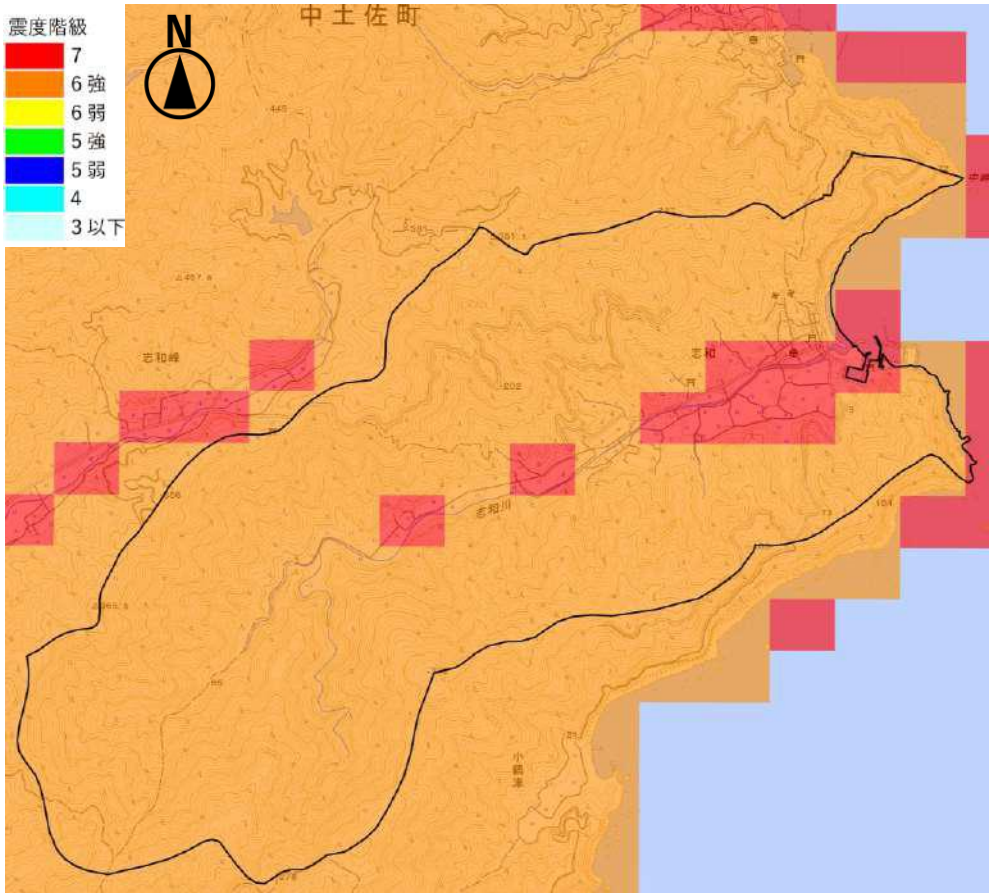
出典：令和7年度［高知県版］南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測について

震度分布図（志和地区）

L1クラスの震度分布図



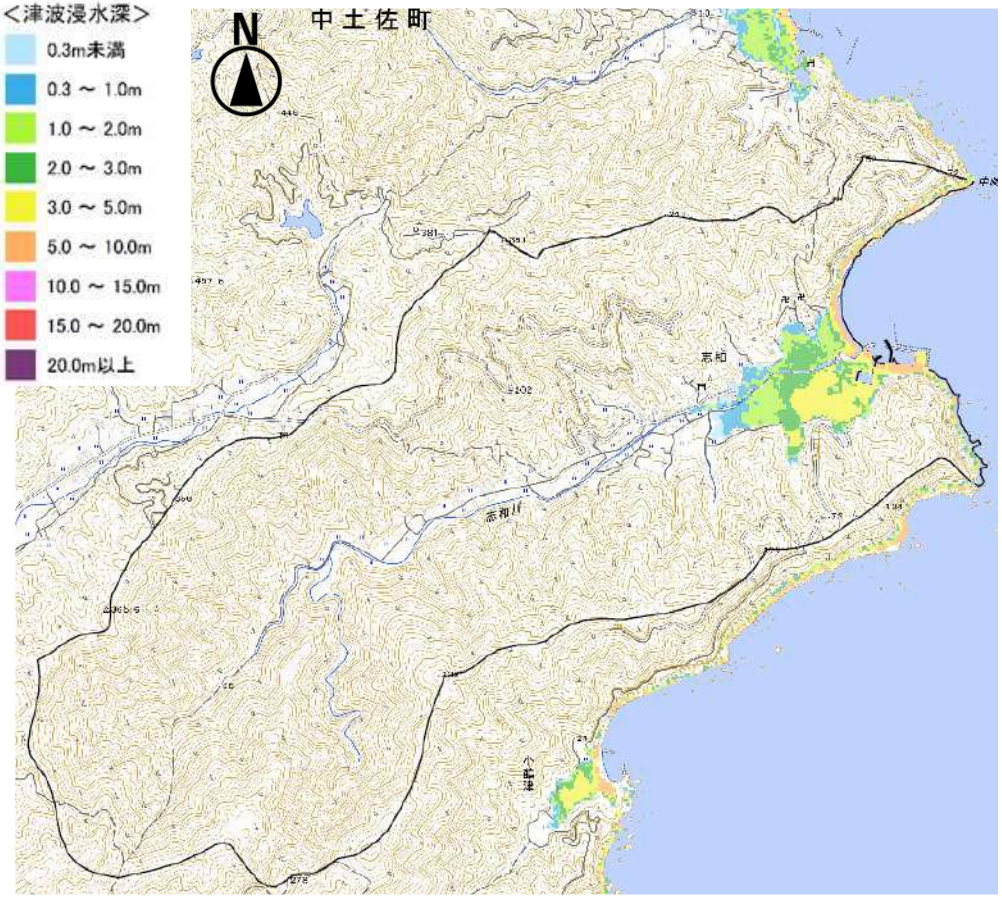
L2クラスの震度分布図



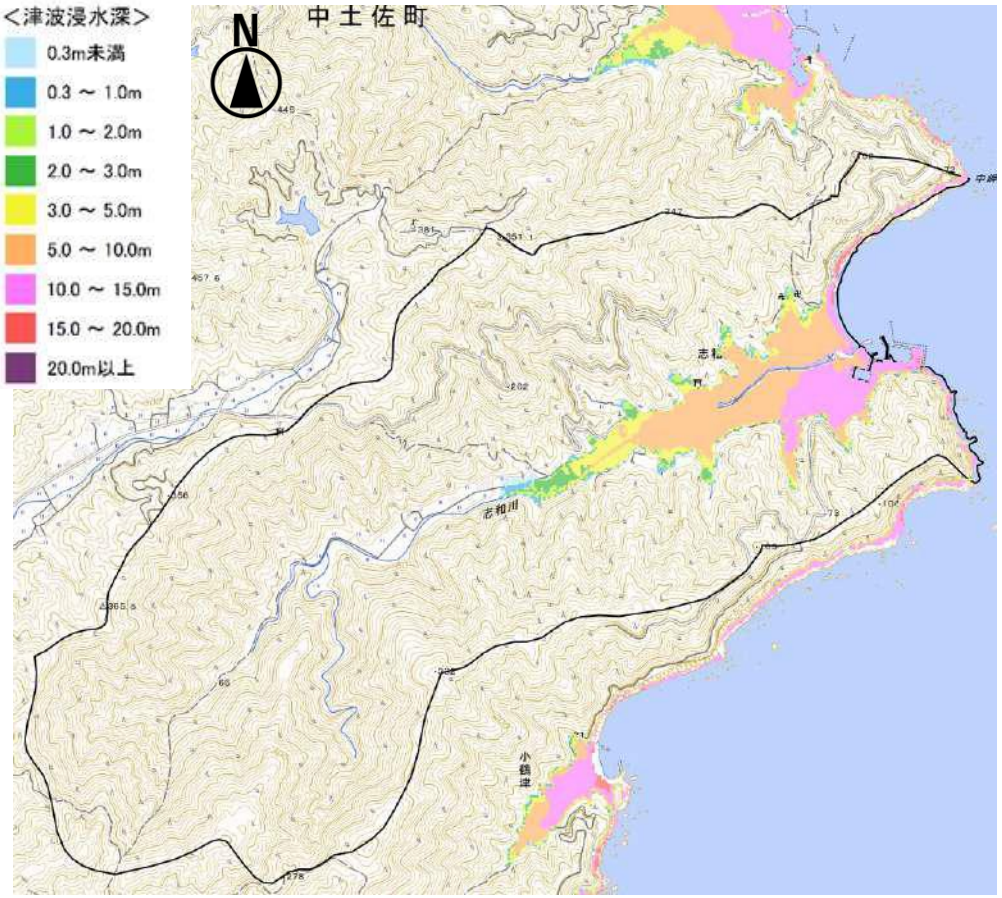
出典：令和7年度［高知県版］南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測について

津波浸水想定（志和地区）

L1クラスの津波浸水想定



L2クラスの津波浸水想定



出典：令和7年度［高知県版］南海トラフ地震による最大クラスの震度分布・津波浸水予測について

四万十町全域の最大・対策後被害一覧（死者数最大ケースにより抜粋）

L1クラスの被害想定

想定項目	現状	対策後
建物被害（棟）　全建物棟数 20,856 棟		
液状化	60	–
揺れ	410	30
急傾斜地崩壊	70	–
津波	**370棟**	**–**
地震火災	0	–
合計	**910**	**–**
人的被害（人）　死者数		
建物倒壊	20	＊
うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	＊	–
急傾斜地崩壊	10	–
津波	**10人**	**＊**
火災	＊	–
ブロック塀	＊	–
合計	**30**	**＊**

想定の条件:冬の深夜に発生。避難速度は 1 分あたり 30m。夜間及び避難路の液状化による避難速度低下を考慮。浸水域外への最短直線距離の 1.5 倍の距離を避難。
現状：避難開始のタイミングは 10 分後に 73%、20 分後に 27%／住宅の耐震化率 89%
対策後：避難開始のタイミングは 10 分後に 100%／住宅の耐震化率 100%

L2クラスの被害想定

想定項目	現状	対策後
建物被害（棟）　全建物棟数 20,856 棟		
液状化	60	–
揺れ	6,400	860
急傾斜地崩壊	70	–
津波	**890棟**	**–**
地震火災	20	–
合計	**7,400**	**–**
人的被害（人）　死者数		
建物倒壊	400	50
うち屋内収容物移動・転倒、屋内落下物	10	–
急傾斜地崩壊	10	–
津波	**260人**	**120**
火災	＊	–
ブロック塀	＊	–
合計	**660**	**170～**

【被災ケース　地震動：陸側／津波：ケース⑩】

- 「－」未算出　／　「＊」若干名
- 人的被害の合計は、建物倒壊と津波による死傷者数の合計とする。
- 四捨五入の関係で合計が合わない場合がある。

出典：高知県危機管理部南海トラフ地震対策課「【高知県版】南海トラフ地震による最大クラスの被害想定（令和 8 年 3 月）」

（４）グループ討議

将来の復興まちづくりの選択肢
～復興パターンの検討～

興津・志和地区における事前復興まちづくり計画の検討の方向性

- 高知県が公表している津波浸水想定には、「発生頻度の高い一定程度の地震・津波（L1）」から「最大クラスの地震・津波（L2）」まで**幅があります。**

- 実際に起こる災害の規模を事前に特定できません。そのため、**復興の姿を１つに決めるのではなく、**想定の幅に対応した複数の選択肢（パターン）を事前に検討しておくことで被害の状況と地域の思いに応じた対応が可能となります。

- 「高知県事前復興まちづくり計画策定指針」に示された復興パターンを興津・志和地区の地形条件に当てはめ、**検討の出発点となる「たたき台」を作成すること**を提案します。



地域の思いを実現できるよう備えておく

復興パターン（高知県事前復興まちづくり計画策定指針）

	地形	市街地復興	市街地、集落の立地状況	被害特性（L２想定）	イメージ
パターン1 （リアス式海岸）	リアス式海岸地形で平地は背後の山地が迫り狭隘	高台移転	●漁港や加工施設等を中心とした小規模な集落・市街地が海岸に沿って立地	●漁業施設、集落の壊滅的な被害	
パターン2 （海岸段丘）	海岸段丘	高台移転	●沿岸の低位段丘面に漁業を中心とした集落・市街地が立地 ●中位段丘面の広域農道に沿って農業集落が立地	●低位段丘面に立地する集落・市街地の壊滅的な被害	
興津・志和地区に該当 パターン3 （平野部：背後に山地）	海岸と背後の山地の間に沖積平野が形成	高台移転 ＋ 現位置での面整備	●平野部に公共施設、商業・業務施設等の市街地が立地し都市行政機能が集積	●低地に立地する市街地の大半が流出 ●主要な公共施設、並びに商業・業務施設の大半が被災 ●都市行政機能が壊滅的な被災	
パターン4 （平野部）	平野部	内陸移転 ＋ 現位置での面整備	●海岸から連続するなだらかな平地に公共施設、商業・業務施設等の都市行政機能が集積し内陸部には農地が広がる	●沿岸の集落・市街地が被災 ●内陸部の被災は比較的軽微	

	地形	市街地復興	市街地、集落の立地状況	被害特性（L1想定）
パターン0 （現位置再建）	上記の4パターンに適用	現位置での復旧または面整備	日常生活やなりわいへの影響から、避難対策により命を守ることを基本として、津波が引いた後に市街地・集落を現地に再建する ●海岸と近接して暮らしとなりわいが密接に関連し移転等を望まない地域 ●背後に移転適地の確保が困難な地域	●実際の被害が事前の被災想定よりも著しく小さく市街地等が残存した場合にも適用が考えられる ●将来の災害リスク（L２）も念頭に置く必要がある

出典：高知県事前復興まちづくり計画策定指針 一部加工

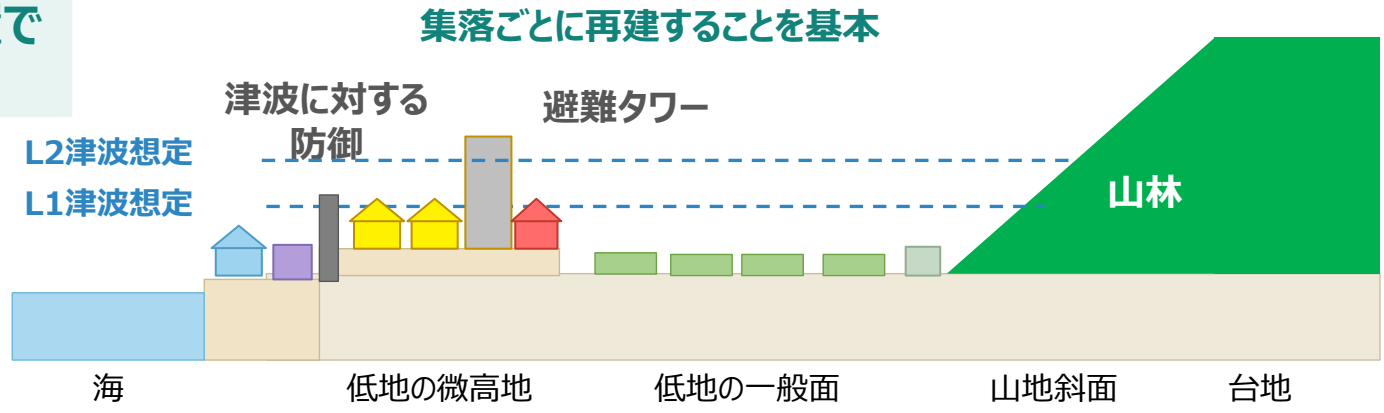
復興まちづくりの選択肢の検討（興津地区、志和地区）

選択肢① 現位置再建型

県指針のパターン０に該当

可能な限り現在の集落の位置で住み続けたい

- ✓ 津波に対する防御
- ✓ 災害公営住宅／自力再建
- ✓ 津波避難対策



※断面図はイメージ。区分は現況ゾーニング図に対応。

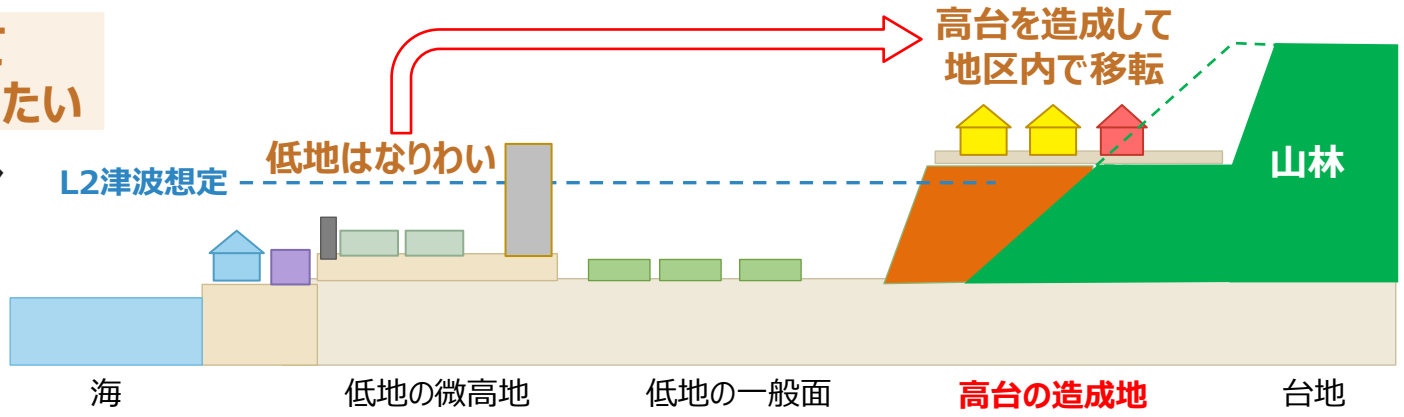
居住　公共公益　商業観光　漁業施設　農地　畜産・施設園芸

選択肢② 高台移転型

県指針のパターン３に該当

居住地の移転などによって将来にわたって安全なまちにしたい

- ✓ 住まいを高台の安全な場所へ
- ✓ 災害公営住宅
- ✓ 低地はなりわい
- ✓ 津波避難対策
- ✓ 土砂災害対策



本日の位置付け

興津・志和地区の基礎情報を整理

事務局で事前に整理

復興まちづくりの課題整理・共有

本日の第2回委員会で検討

復興まちづくりの選択肢（たたき台）

本日の成果をふまえ事務局で作成

委員会・地域検討会での検討

地区の皆さんの意見もふまえて検討

事前復興まちづくり計画の策定

関係機関との協議や意見公募を経て
来年度末に策定

興津地区、志和地区　地区ごとの課題共有

グループ討議の進め方

興津・志和地区の基礎情報

各テーブルの資料

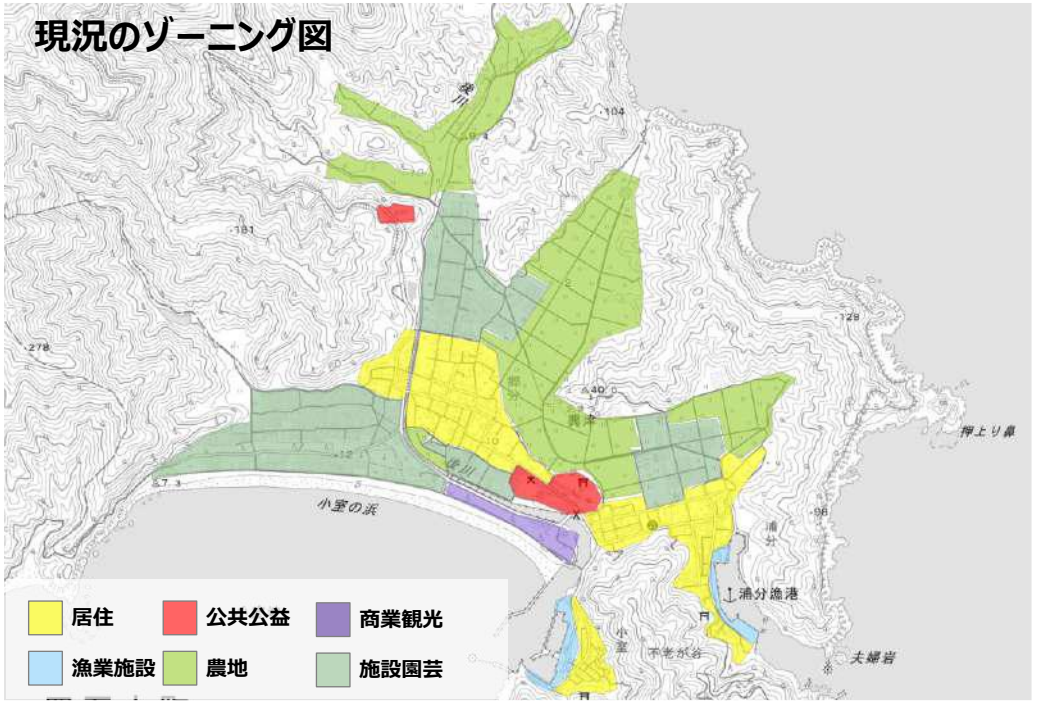
地区の姿を知る

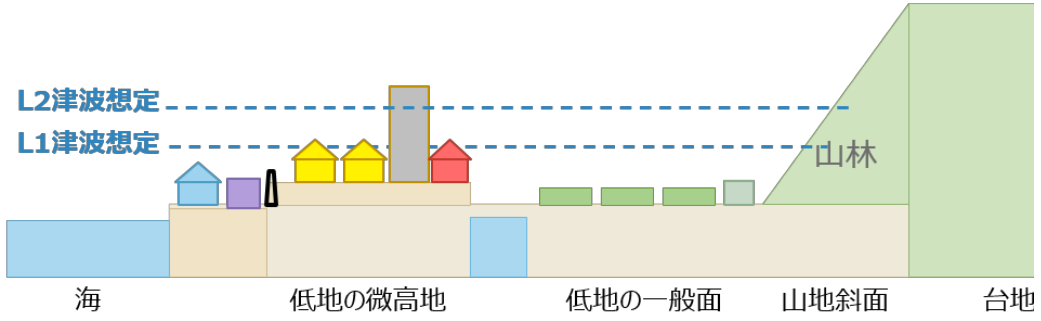
- ✓ 土地利用状況
- ✓ 土地条件図

災害リスクを知る

- ✓ 震度分布図
- ✓ 津波浸水想定図
- ✓ 津波浸水予測時間図（L2）
- ✓ 液状化リスク
- ✓ 土砂災害リスク分布状況
- ✓ 町全域の被害想定

- ペン
- ふせん
- 立体的に確認できる地形情報





グループ討議の進め方

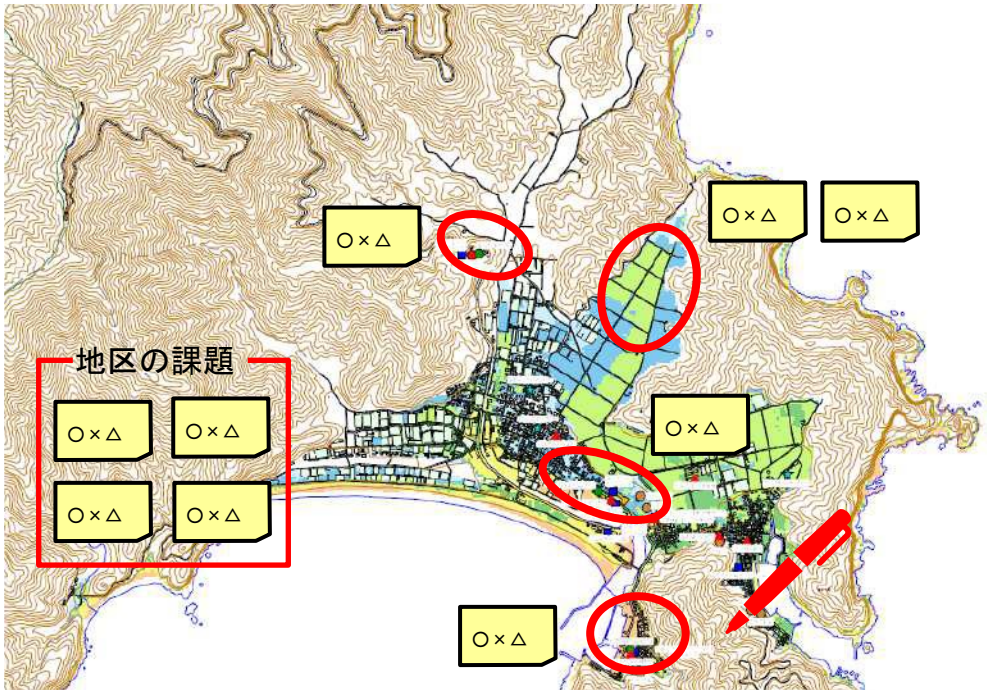
復興まちづくりの課題を共有

現在も困っていること・不安なこと
例) 道が1本しかない／高齢の方の避難が不安／空き家が増えた

将来の住まいとなりわいの場所
例) この高台なら住めそう／漁港は元の位置で／店や集会所はこのあたりに集めたい

将来に残したいもの
例） 秋の祭り／神社と鳥居／浜からの景色／隣近所で助け合う関係

本日の成果のイメージ

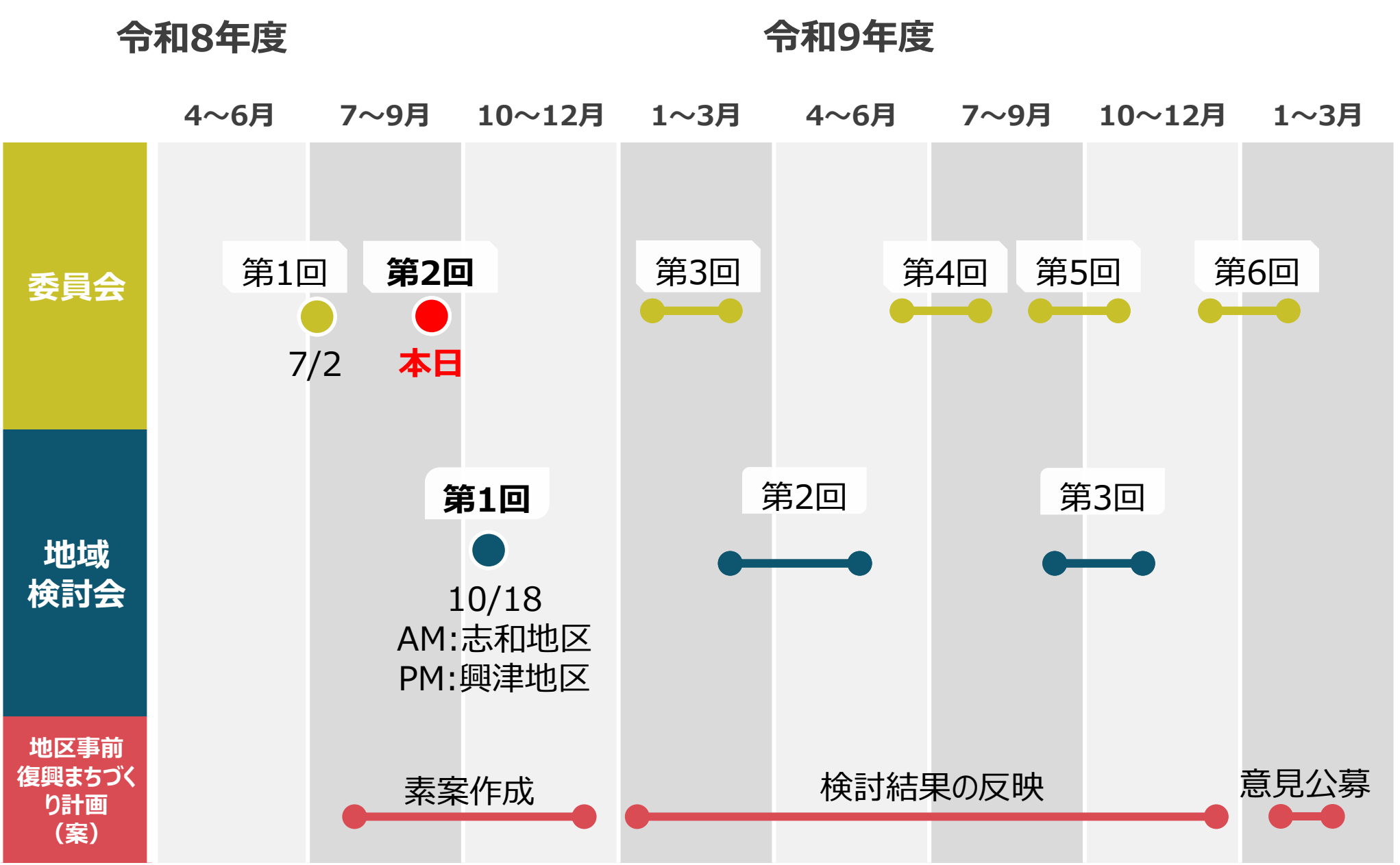


整理のしかた

場所に関する意見は、必ず地図の該当箇所に貼ってください。

（５）第1回地域検討会の進め方について

検討のスケジュール


令和8年度
令和9年度
4～6月
7～9月
10～12月
1～3月
4～6月
7～9月
10～12月
1～3月
委員会
第1回
7/2
第2回
本日
第3回
第4回
第5回
第6回
地域検討会
第1回
10/18
AM:志和地区
PM:興津地区
第2回
第3回
地区事前復興まちづくり計画（案）
素案作成
検討結果の反映
意見公募

地域検討会の進め方（案）

日　時: 令和8年10月18日（日）の日中(2時間程度)　**対　象:** 興津地区・志和地区の住民（地区ごとに開催）
内　容: 地区の図面を囲み、将来のまちについて意見出し

委員会

メンバー：
地区代表者、有識者、防災及びまちづくりに関する関係機関

検討内容：
- 全体のスケジュールや地域検討会の進め方を検討
- 地区の復興まちづくりの方向性について検討

地域検討会

メンバー：　住民から参加者を選定

検討内容：
- 復興後の住まいやなりわいの場をどこに置くか
- 地区に残したいもの、暮らしの中の課題

➢ 委員が地区・世代のバランスを見て参加者を推薦
➢ 若い世代・女性等にも意識的に声かけ
➢ 1班5～6名 × 3班を確保

○ 少人数で全員が発言でき、意見を将来像として集約しやすい

△「一部の人だけで決めた」と受け取られないよう、結果の共有が必須

全体共有

地域検討会でまとめた内容は別途共有の場を設けるなどして地区全体へ周知

※周知の方法は地域検討会の結果を踏まえて設定


第1回委員会（7月2日）


地域検討会のイメージ


全体共有のイメージ